

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

見能林小学校
「学力向上実行プラン」

児童の主体的な学びを展開させるため、直接体験やICTを効果的に活用した学習指導の工夫をし、児童の可能性を最大限に伸長する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長:竹治直樹 教頭:久龍和巳 教務:古川圭三 1学年主任・研修主任:田上晶代
2学年主任:中野善子 3学年主任:横手里佳 4学年主任:横手裕一 5学年主任:近藤佑亮
横手 里佳 6学年主任:助岡洋子 特別支援コーディネーター:前川佳世

校長
竹治 直樹

【各校の取組状況の把握について】

- ・学力向上に関する校内研修やアンケートの実施
- ・学年団による話し合い後、文書報告

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●既習の知識・技能を活用する力が十分でない。 ●読書量に差があり、語彙力が十分でない。	・学習準備を整え集中して学習に取り組むことができる。 ・漢字や計算など基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・既習の知識・技能を、学習や生活と関連付けて活用できる。 ・図書や新聞を活用し、語彙力を高め正しい言葉で文章を書くことができる。	・朝の活動において曜日を設定し、継続的に漢字・視写・音読・計算など基礎的・基本的な内容の習得を図る。 ・読書の楽しさを児童に体感させ、進んで読書に取り組めるような環境づくりをする。 ・毎週配布される新聞を活用する。 ・タブレット端末の活用について研修を行い、積極的(毎日)に授業等で活用し、児童が日常的に使用できるようにする。	・必要な情報を取り出し、まとめる力を高めるために、キーワードに線を引いたり、繰り返し読んだりする。 ・正確に読み取る力を身につけるため、コグトレに取り組む。 ・図形の感覚を身につけるため直接体験を重視する。 ・積極的に新聞を活用したり、進んで読書に取り組めるような環境づくりを行ったりする。	・まとめる力を高めるためのキーワードを意識した指導や正確に読み取るための指導を行ってきたが、定着には個人差がある。 ・算数科では、図形や数量の感覚を身に付けるための直接体験を取り入れたことで、理解を深めた。 ・図書室の利用や積極的な新聞の活用(視写や音読・新聞感想など)を行い、少しずつではあるが語彙力が高まってきた。	・必要な情報を取り出し、まとめる力を高めるための方策や正確に読み取る力を付けさせる方策を工夫する。 ・引き続き、毎週配布される新聞等を活用したり、読書を行う時間を確保したりして、語彙力と読む力を高める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットの活用で思考の共有が効果的に行え、考えを深めることができるようになってきた。 ●話し合い活動などで意見を聞き、自らの考えを深めたり相手に伝えたりする力が十分でない。 ●複数の情報から必要な情報を読み取るのが苦手である。	・自分の考えを整理し、順序立てて話すことができる。 ・考えや思いを適切に文章に表現することができる。 ・相手の話をしっかり聞き、自分の意見をはっきり伝えることができる。 ・語彙を増やすとともに、豊かな表現力をつける。	・児童の思考につながるよう主発問を吟味し、思考の時間を十分に確保するとともに互いの考えを話し合う時間をとる。 ・児童がICTを活用する授業を行い、考えを深めたり意見を交流したりする場面を設ける。 ・個別のニーズに応じたタブレット使用の指導・支援環境を整える。 ・人に伝えることを意識し、声の大きさや発表の仕方を考えさせる。	・引き続き、言葉だけでなく、図・タブレット・ホワイトボード等を用いて、思考を助けるツールを活用していく。 ・個別のニーズに応じたタブレット使用の指導・支援が行えるよう、タブレットの研修や意見交換を行う。	・プレゼン資料を作成したり、話し合ったことを班でまとめたりするのにタブレットやホワイトボードを用い、考えを深めたり、相手に伝えたりする力がついてきたが、個人差が大きい。 ・タブレットの研修で学んだことを取り入れて指導したが、表現力・思考力の向上については、十分とは言えない。	・表現力や思考力を育むため、タブレット等の思考を助けるツールの活用方法を更に考えていく必要がある。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のルールを守ろうと努力し、落ち着いて取り組んでいる。 ○ICT活用により、児童の学習意欲が高まってきた。 ●指示されたことはできるが、自ら課題を見つけ、解決していこうとする力が弱い。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや分かる喜びを感じることができる。 ・自分の考えや意見を進んで発表できる。 ・ICTを意欲的に活用し、探究的に学習に取り組むことができる。	・直接体験やオンライン教材を積極的に活用し、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・ICTの活用について、教職員自身が研修を深め意識改革を図る。 ・家庭や地域との連携を生かした授業展開を行う。	継続して取り組む。	・オンライン教材を積極的に活用し、児童が主体的に取り組める環境を設定した。 ・様々な教科で、ICTの活用頻度を増すことができた。 ・地域や家庭と連携した授業を展開することで、意欲的・主体的に取り組むことができた。	・引き続きICTの活用について、研修を行う必要がある。 ・自主学習について、主体的に行う児童とそうでない児童で、内容に差を感じる。手引きの見直しや好事例の紹介など、より効果的な手立ての在り方を考える必要がある。

令和6年度 学力向上ロードマップ

